令和６年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業

令和6年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業〔主催＝日本武道館・全日本銃剣道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁、協力＝勝浦市立勝浦中学校（千葉県）〕が、12月6日～8日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて8名の研究者が参加して実施された。

12月７日には勝浦市立勝浦中学校の生徒（18名）の協力を得て模擬授業を実施し、併せて課題等の研究討議も行った。

■初　日（12 月 6 日）

開講式では、市野保己全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事、沢登英徳日本武道館振興課主事兼課長補佐が、それぞれ主催者挨拶を述べた。開講式終了後は、翌日に実施する模擬授業の指導内容の検討を行った。
午前、午後と２回模擬授業を実施するため、研究者８名を４名ずつに分け、滝沢元気研究者と石川慎也研究者が統括する２グループを編成した。その後は、それぞれで指導案を練り、内容を全員に共有して翌日の模擬授業に備えた。

■2 日目（12 月 7 日）

午前は勝浦中学校美術部の生徒の参加を得て、滝沢研究者のグループが模擬授業を行った。

田村聖一研究者による銃剣道紹介の講義に続き、清水陽介研究者が教員役、滝沢、田村、宮内祐輔の各研究者が外部指導者役として実技指導に入った。清水研究者はまず、「銃剣道の形を成功させよう」という授業目標を掲げ、その上で礼法、木銃の持ち方・置き方・構えに続いて、形の練習に移り、突き、足さばき、打ち払い、打ち払ってからの突きといった、形に繋がる動作を学習した。

突きの練習では、「突いたときの右手は左胸の位置に」、「床と木銃は平行になるように」などのアドバイスがされた。さらに形をタブレットで撮影し、「発声・木銃が目標を捉えているか・正しい姿勢」のいわゆる「気剣体の一致」や、「残心」ができているかを確認した。また、チェックシートを配布して生徒が内容に沿って自己評価をした。最後に形の発表を行い、２時間半程度の短い時間でありながら、生徒は見事な演武を披露して授業は終了した。

午後の模擬授業：全員で突きの練習

午後は勝浦中学校吹奏楽部の協力のもと、石川研究者のグループが模擬授業を担当した。

最初に銃剣道に関する DVD を全員で視聴した後、加藤弘晃研究者が教員役、石川研究者・千葉隆研究者が外部指導者役として準備運動、木銃の取り扱い方、構え、突きの練習を行った。

その後、菊池聡研究者に教員役を交代。授業のテーマを「明るく・元気よく・かっこえーやん」と、親しみやすいフレーズに設定して生徒の緊張をほぐし、新聞紙突き、ボールを突いて的当てをする等、ゲーム形式の練習法を実践した。菊池研究者は「楽しみながらも礼をしっかり、姿勢正しく突いてカッコよく。メリハリをつけよう」と生徒に呼びかけた。生徒たちは少人数のグループに分かれて順番に練習し、うまく突けた人には「かっこえーやん」と声をかけるなど、和気藹々とした雰囲気で授業は進んでいった。最後に防具を着用した研究者を相手に突きの練習を行い、物と人を突く感覚の違いを体験して模擬授業は終了した。

その後、研究者が振り返りを行い、「気剣体や残心についてもっと説明するべきではないか」、「最初に授業目標を明示したことで生徒もイメージができたのではないか」といった意見が挙がった。

■3 日目（12 月 8 日）

最終日は「銃剣道授業の評価の方法」と「外部指導者の育成を今後どのように行っていくか」をテーマとした討議が行われ、研究者同士で意見交換した。

外部指導者の育成についての討議では、「部活動ではなく、学校の授業という意識を指導者が持つ必要がある。体育が苦手、嫌な生徒がいることも意識して授業は行わなければならない」などの提言があった。

閉講式では、石川研究者が講評を述べ、予定していた内容をすべて終え、閉会となった。